

II 調査結果の概要

1 発育状態調査結果

(1) 身長

平成23年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の身長(県平均値。以下同じ。)については次のとおりである。(図1、表1)

① 前年度との比較(表1 p15)

男子の身長は、9歳、10歳、11歳、14歳、16歳及び17歳で、前年度の同年齢より0.2～0.5 cm増加しており、最も増加しているのは9歳の0.5 cmである。5歳～8歳及び12～13歳では、0.1～0.5 cm減少しており、最も減少しているのは6歳及び13歳の▲0.5 cmである。

女子の身長は、6歳、8～9歳及び16歳で、前年度の同年齢より0.1～0.6 cm増加しており、最も増加しているのは8歳及び15歳の0.6 cmである。5歳、7歳、10～14歳及び16～17歳では、0.4～1.1 cm減少しており、最も減少しているのは10歳の▲1.1 cmである。

② 男女の比較(図1、表5 p19)

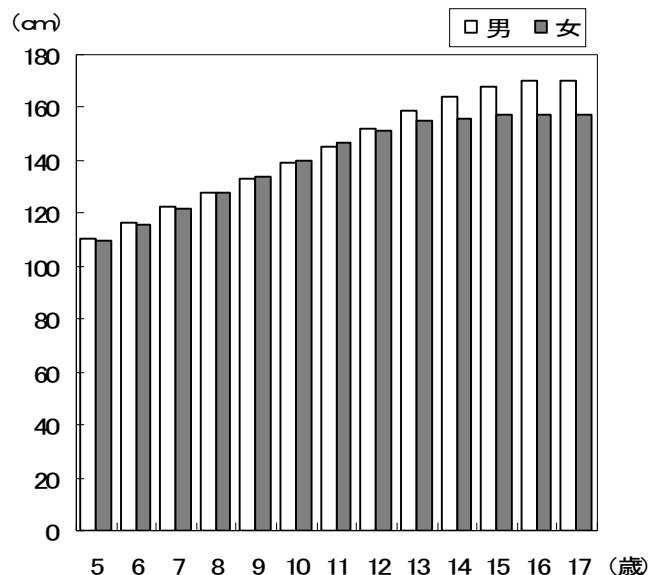
男女の身長を比べると、8歳から11歳で女子が男子を上回っており、11歳では1.0 cm、女子が男子を上回っている。

図1 年齢別 男女別 身長の平均値

③ 全国平均値との比較(表4 p18)

全国平均値と比べると、男子では、11歳で、全国平均値を0.4 cm上回っているが、その他の年齢では、10歳が全国平均である以外はすべて全国平均値を下回っている。

女子では、5～6歳、8～9歳及び15歳で全国平均値を上回っている。7歳、9～14歳、16歳及び17歳で全国平均値を下回っている。



(2) 体重

平成23年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の体重(県平均値。以下同じ。)については次のとおりである。(図2、表2)

① 前年度との比較(表2 p16)

男子の体重は、10歳、12歳、14歳及び15歳で、前年度の同年齢より0.1～1.1 kg増加しており、最も増加しているのは14歳の1.1 kgである。5～9歳、11歳、13歳、16歳及び17歳では、0.1～0.7 kg減少しており、最も減少しているのは13歳の▲0.7 kgである。

女子の体重は、12歳、13歳、15歳及び17歳で、前年度の同年齢より0.1～0.4kg増加しており、最も増加しているのは15歳の0.4kgである。5歳、7歳、9歳、10歳、14歳及び16歳で、0.2～0.7kg減少しており、最も減少しているのは10歳の▲0.7kgである。

② 男女の比較(図2、表5 p19)

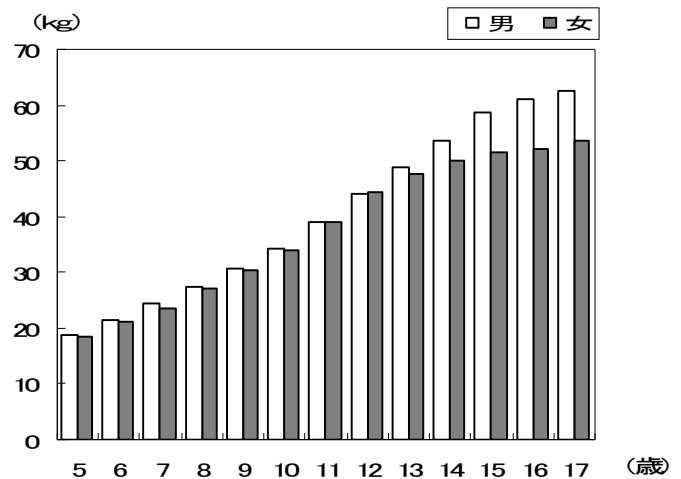
男女の体重を比べると、11歳で0.2kg、12歳で0.4kg女子が男子を上回っている。

図2 年齢別 男女別 体重の平均値

③ 全国平均値との比較(表4 p18)

全国平均値と比べると、男子では7歳～12歳で、全国平均値を0.2～0.9kg上回っている。5歳及び13～17歳で、全国平均値を0.1～0.7kg下回っている。

女子では、6歳、8歳、9歳、11～14歳及び17歳で、全国平均値を0.1～0.8kg上回っている。10歳及び16歳では、全国平均値を0.1～0.3kg下回っている。



(3) 座高

平成23年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の座高(県平均値。以下同じ。)については次のとおりである。(図3、表3)

① 前年度との比較(表3 p17)

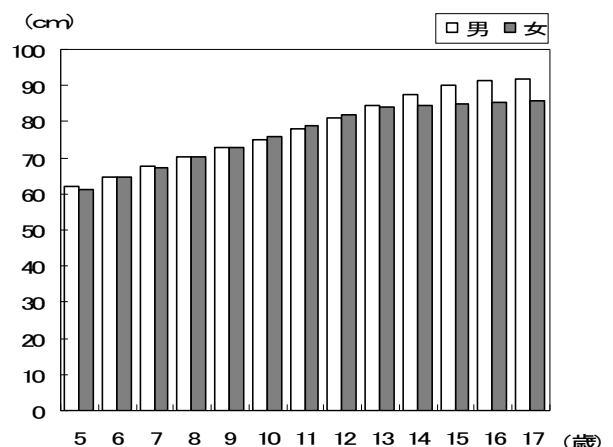
男子の座高は、5歳、8～11歳、14歳、15歳及び17歳で、前年度の同年齢より0.1～0.8cm増加しており、最も増加しているのは5歳の0.8cmである。6歳、7歳、12歳、13歳及び16歳では、0.1～0.4cm減少しており、最も減少しているのは13歳の▲0.4cmである。

女子の座高は、5歳、6歳、8歳、9歳、12歳、15歳及び17歳で、前年度の同年齢より0.1～0.6cm増加しており、最も増加しているのは5歳の0.6cmである。7歳、10歳、11歳、14歳及び16歳では、0.2～0.4cm減少しており、7歳と11歳が▲0.4cmとなっている。

図3 年齢別 男女別 座高の平均値

② 男女の比較(図3、表5 p19)

男女の座高を比べると、9～12歳で女子が男子を上回っており、12歳では0.9cm、女子が男子を上回っている。



③ 全国平均値との比較(表4 p18)

全国平均値と比べると、男子では7～11歳で全国平均値を0.1～0.4cm上回っている。5歳、6歳、13～15歳及び17歳では、全国平均値を0.1～0.4cm下回っている。

女子では、6歳、8歳及び9歳で全国平均値を 0.1～0.4 cm上回っている。7歳、10 歳、11 歳及び 14～17 歳では、全国平均値を 0.1～0.4 cm下回っている。

(4) 県平均値における 1 年間の発育量

身長・体重・座高の県平均値について、各年齢時の1年間の発育量を見てみると、次のとおりである。(図4、表6 p20)

① 身長

男子では、10歳時～12歳時に発育量が著しく増加しており、11歳時が最大となっている。
女子では、5歳時～10歳時に発育量が増加しており、8歳時が最大となっている。

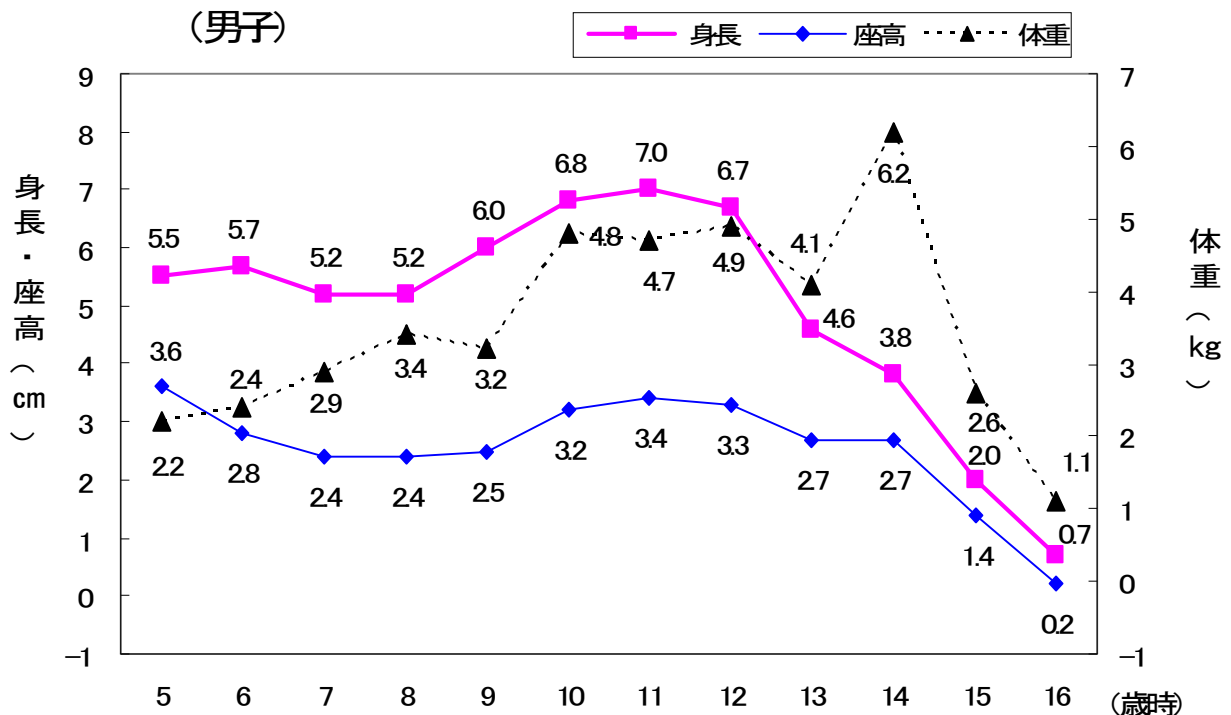
② 体重

男子では、10歳時～14歳時に発育量が増加しており、14歳時が最大となっている。
女子では、10歳時～11歳時に発育量が増加しており、11歳時が最大となっている。

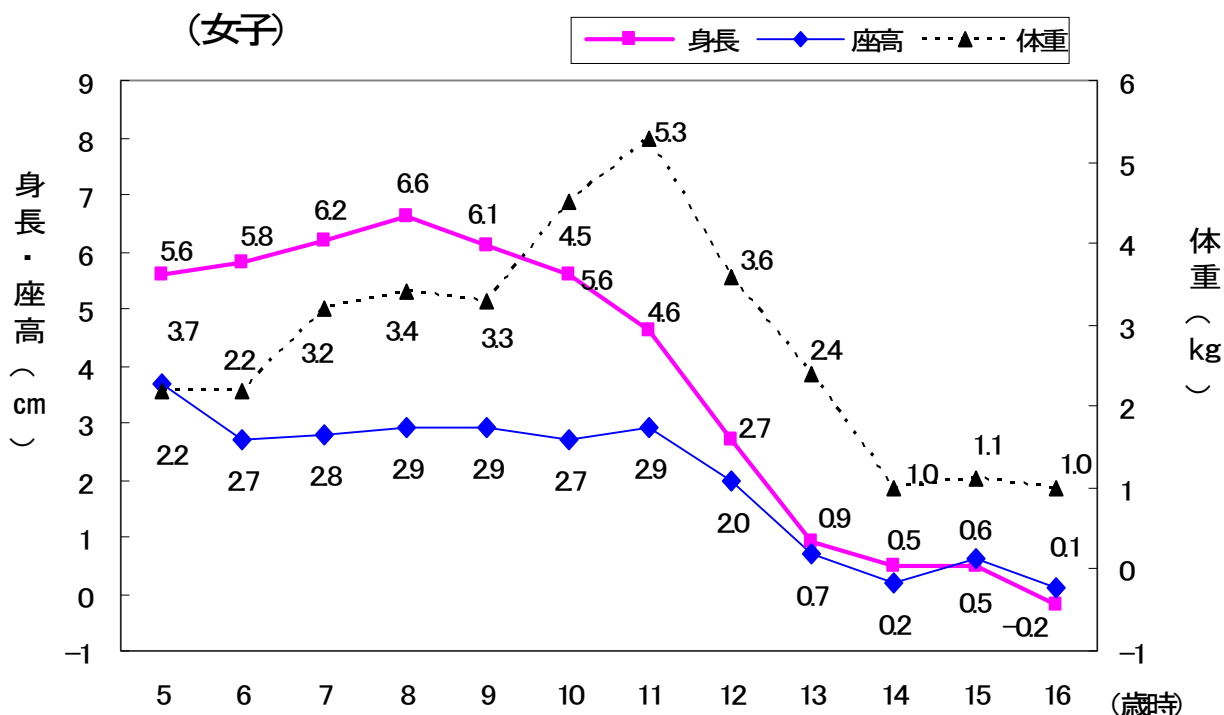
③ 座高

男子では、5歳時で最も発育量が多く、10歳時～12歳時も発育量が増加している。
女子では、5歳時で最も発育量が多く、6歳時～12歳時まで高い発育量を示している。

図4 県平均値における 1 年間の発育量



注) 1年間の発育量とは、例えば5歳時の発育量であれば、平成 23 年度の6歳の県平均値から平成 22 年度の5歳の県平均値を引いた数値。以下同じ。



(5) 県平均値における親世代 (昭和56年度) との比較

身長・体重・座高の県平均値について、その親の世代である30年前の昭和56年度と比較してみると、男子は5歳、6歳の座高、女子では、5歳の体重と座高、16歳の体重を除き、男女とも各年齢において親世代を上回っている。(図5、図6、図7、表7 p21)

① 身長

男子の身長を比べると、最も差がある年齢は12歳で、親の世代より4.0cm高い。

女子の身長を比べると、最も差がある年齢は8歳で、親の世代より2.5cm高い。

② 体重

男子の体重を比べると、最も差がある年齢は12歳で、親の世代より4.7kg重い。

女子の体重を比べると、最も差がある年齢は12歳で、親の世代より2.9kg重い。

③ 座高

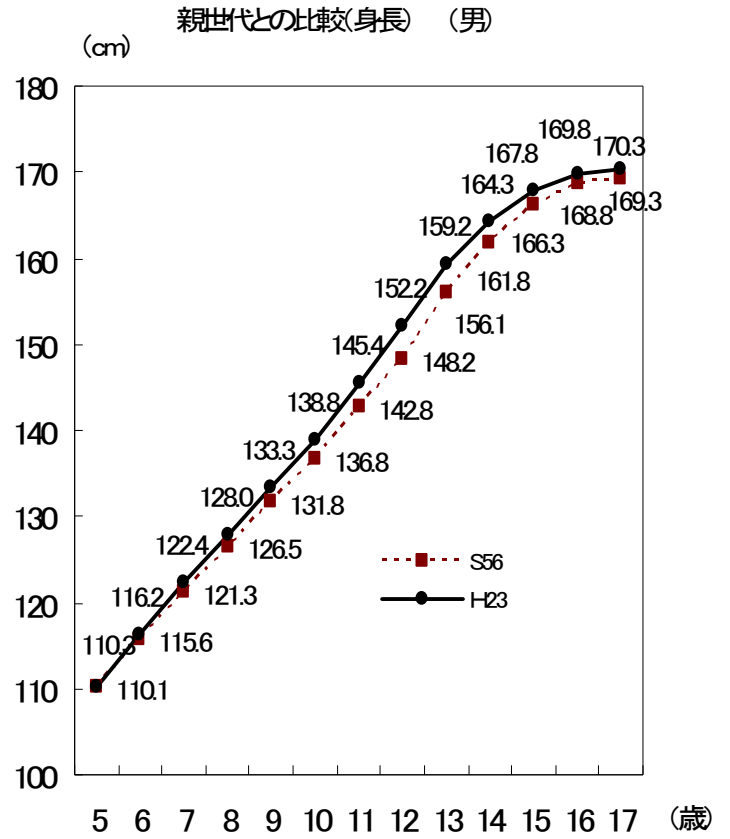
男子の座高を比べると、最も差がある年齢は12歳で、親の世代より2.1cm高い。

女子の座高を比べると、最も差がある年齢は8歳と17歳で、親の世代より1.1cm高い。

なお、身長から座高を引いた足の長さ(下肢長)について比べると、男子でもっとも差がある年齢は12歳で1.9cm、女子では8歳で1.4cm親の世代より長い。

図5 県平均値における親世代との比較(身長)

身長(cm) (男)		
	昭和56年度	平成23年度
5歳	110.1	110.3
6歳	115.6	116.2
7歳	121.3	122.4
8歳	126.5	128.0
9歳	131.8	133.3
10歳	136.8	138.8
11歳	142.8	145.4
12歳	148.2	152.2
13歳	156.1	159.2
14歳	161.8	164.3
15歳	166.3	167.8
16歳	168.8	169.8
17歳	169.3	170.3



身長(cm) (女)		
	昭和56年度	平成23年度
5歳	109.5	109.6
6歳	114.3	115.7
7歳	120.3	121.4
8歳	125.6	128.1
9歳	132.0	134.1
10歳	138.2	139.7
11歳	144.6	146.4
12歳	149.8	151.6
13歳	153.7	154.7
14歳	155.6	156.0
15歳	156.3	157.3
16歳	157.0	157.2
17歳	156.4	157.6

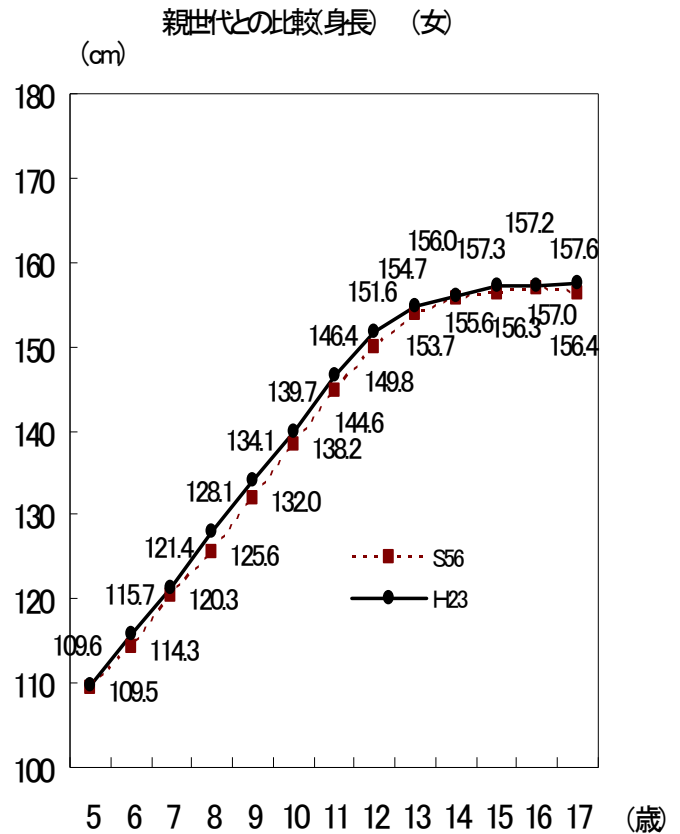
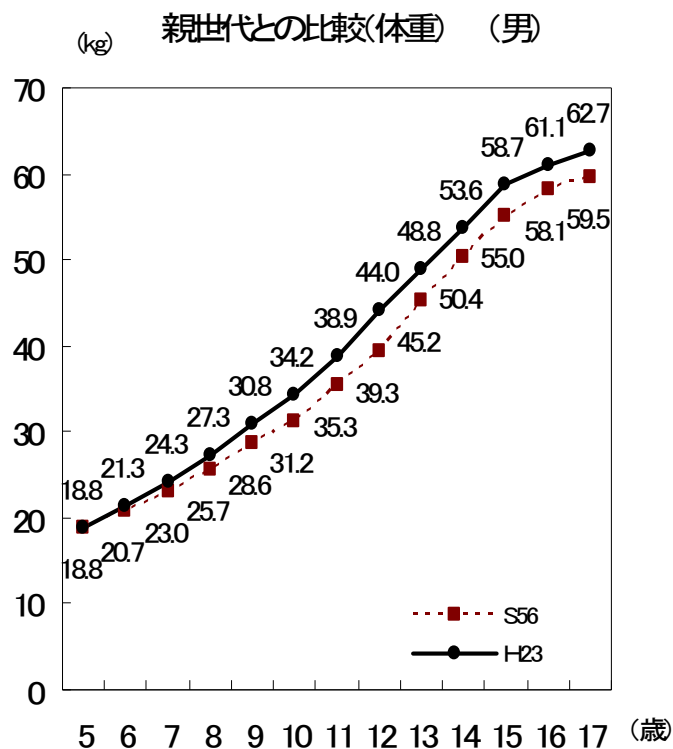


図6 県平均値における親世代との比較(体重)

体 重 (kg) (男)		
	昭和56年度	平成23年度
5歳	18.8	18.8
6歳	20.7	21.3
7歳	23.0	24.3
8歳	25.7	27.3
9歳	28.6	30.8
10歳	31.2	34.2
11歳	35.3	38.9
12歳	39.3	44.0
13歳	45.2	48.8
14歳	50.4	53.6
15歳	55.0	58.7
16歳	58.1	61.1
17歳	59.5	62.7



体 重 (kg) (女)		
	昭和56年度	平成23年度
5歳	18.6	18.5
6歳	19.9	21.2
7歳	22.3	23.4
8歳	25.0	27.0
9歳	28.3	30.4
10歳	32.2	33.9
11歳	36.8	39.1
12歳	41.5	44.4
13歳	45.8	47.7
14歳	48.9	50.0
15歳	51.4	51.4
16歳	52.4	52.1
17歳	52.0	53.6

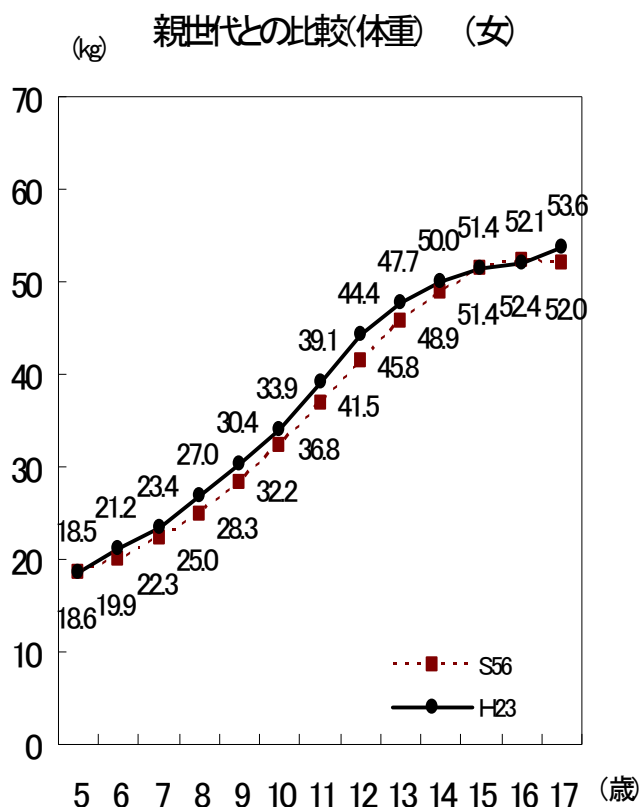
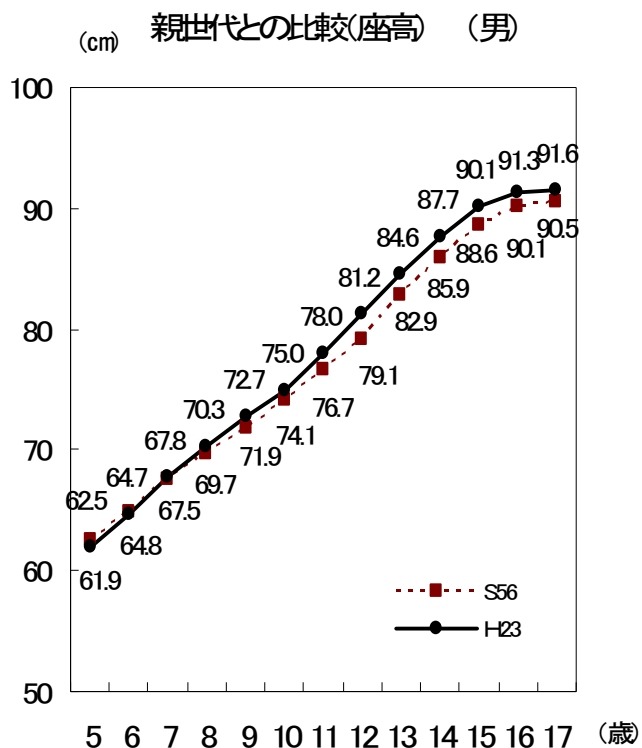
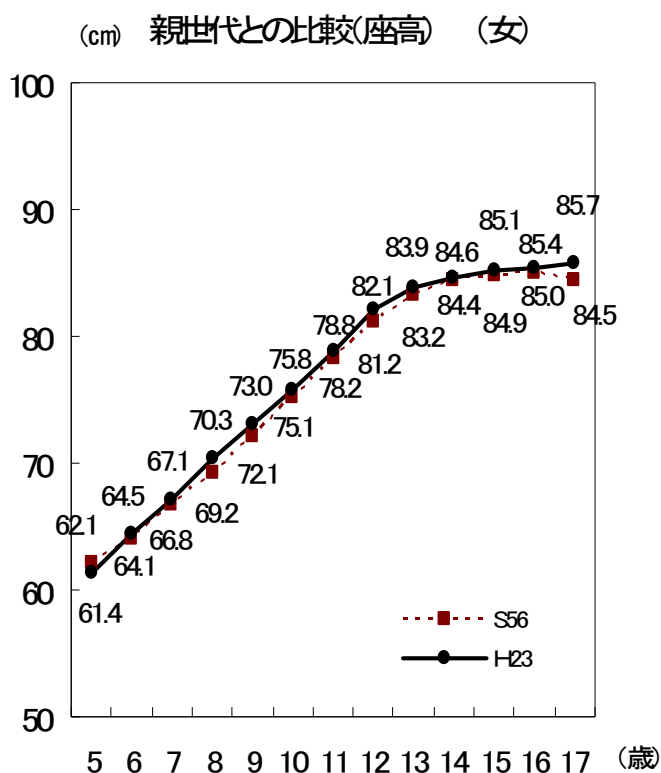


図7 県平均値における親世代との比較(座高)

座 高 (cm) (男)		
	昭和56年度	平成23年度
5歳	62.5	61.9
6歳	64.8	64.7
7歳	67.5	67.8
8歳	69.7	70.3
9歳	71.9	72.7
10歳	74.1	75.0
11歳	76.7	78.0
12歳	79.1	81.2
13歳	82.9	84.6
14歳	85.9	87.7
15歳	88.6	90.1
16歳	90.1	91.3
17歳	90.5	91.6



座 高 (cm) (女)		
	昭和56年度	平成23年度
5歳	62.1	61.4
6歳	64.1	64.5
7歳	66.8	67.1
8歳	69.2	70.3
9歳	72.1	73.0
10歳	75.1	75.8
11歳	78.2	78.8
12歳	81.2	82.1
13歳	83.2	83.9
14歳	84.4	84.6
15歳	84.9	85.1
16歳	85.0	85.4
17歳	84.5	85.7



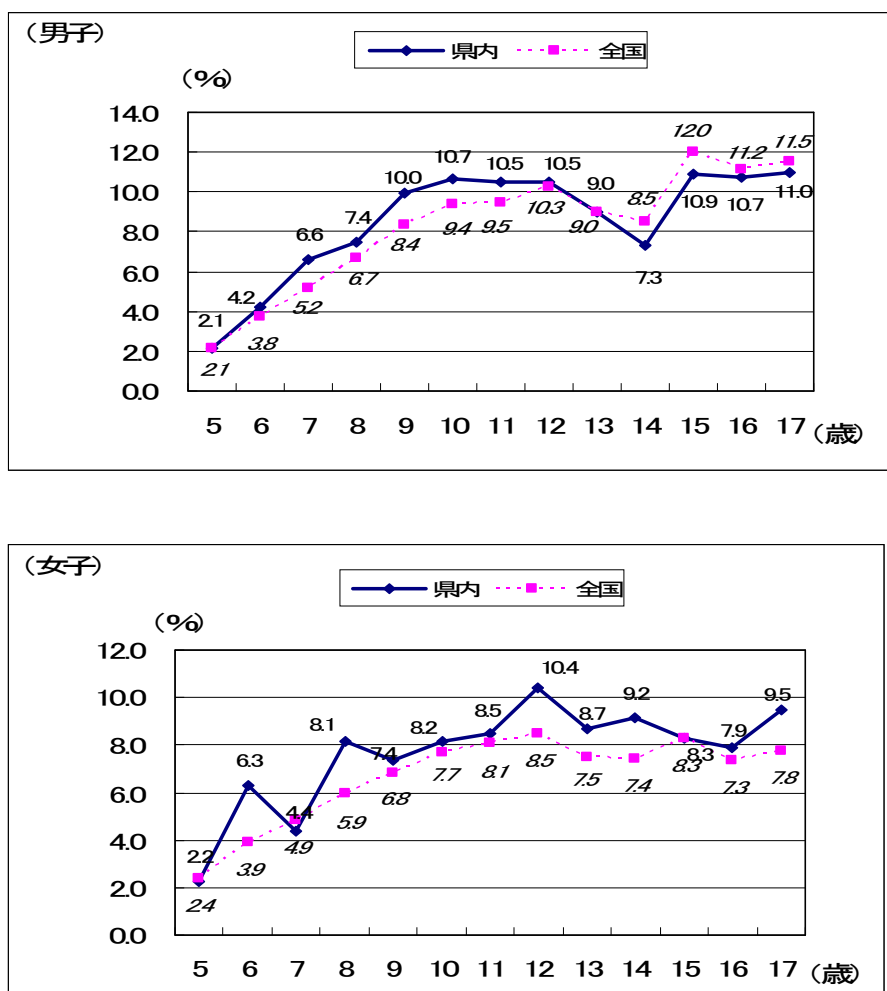
(6) 肥満傾向の者の出現率

県内における肥満傾向の者の出現率は、男子では10～12歳及び15～17歳で10%を超えており、17歳が11.01%と最も高くなっている。女子では、12歳が10%超えの10.43%で、最も高くなっている。(図8、表8 p22)

肥満傾向の者の出現率を全国平均値と比べてみると、男子は、6～12歳でいずれも全国平均値を0.3～1.6ポイント上回っている。9歳において最も大きく全国平均値の出現率を上回っており、その差は1.6ポイントである。14～17歳では、全国平均値を0.4～1.2ポイント下回っている。14歳において最も大きく全国平均値の出現率を下回っており、その差は1.2ポイントである。

女子は、5歳、7歳及び15歳を除くすべての年齢で全国平均値を0.4～2.4ポイント上回っている。6歳において最も大きく全国平均値の出現率を上回っており、その差は2.4ポイントである。5歳で0.2ポイント、7歳で0.5ポイント全国平均値を下回っている。(図8、表8 p22)

図8 肥満傾向の者の出現率の全国平均値との比較



(注) 肥満傾向の者とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。肥満度の求め方は以下のとおり。

$$\text{肥満度} = (\text{実測体重} - \text{身長別標準体重}) / \text{身長別標準体重} \times 100(\%)$$

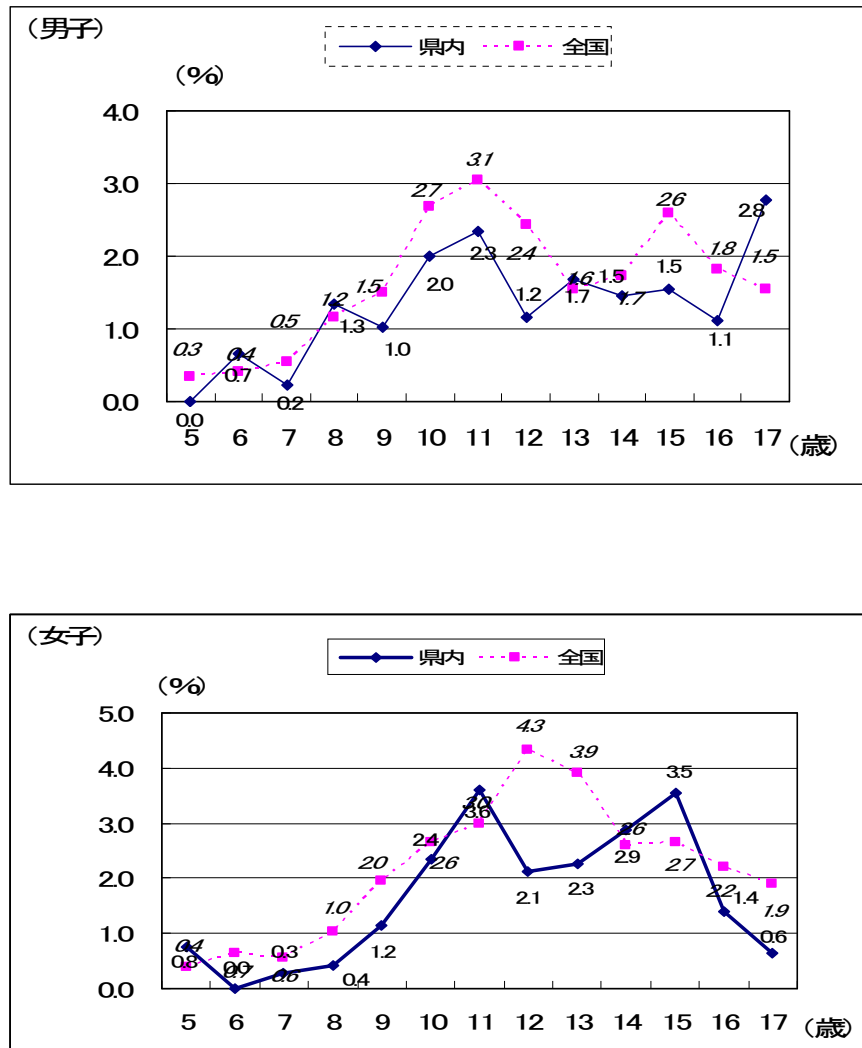
(7) 痩身傾向の者の出現率

県内における痩身傾向の者の出現率は、男子では8～17 までのすべての年齢で 1%を超えており、17歳の2.77%が最も高くなっている。女子では9歳～16歳で1%を超えており、11歳の3.59%が最も高くなっている。(図9、表9 p23)

痩身傾向の者の出現率を全国平均値と比べてみると、男子は、6歳、8歳及び13歳で全国平均値の出現率を上回っている。6歳において最も大きく上回っており、その差は0.3ポイントである。5歳、7歳、9～12歳及び14～17歳では、全国平均値の出現率を0.3～1.3ポイント下回っている。12歳において、最も大きく下回っており、その差は▲1.3ポイントである。

女子は、5歳、11歳、14歳及び15歳で全国平均値の出現率を0.3～0.9ポイント上回っている。15歳において、最も大きく全国平均値の出現率を上回っており、その差は0.9ポイントである。6歳～10歳、12歳、13歳、16歳及び17歳では、全国平均値の出現率を0.3～2.2ポイント下回っている。12歳において、最も大きく下回っており、その差は▲2.2ポイントである。(図9、表9 p23)

図9 痩身傾向の者の出現率の全国平均値との比較



(注) 痩身傾向の者とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下の者である。肥満度の求め方は以下のとおり。

$$\text{肥満度} = (\text{実測体重} - \text{身長別標準体重}) / \text{身長別標準体重} \times 100(\%)$$

2 健康状態調査結果

学校保健統計調査では、発育状態とともに、健康状態も調査しているが、熊本県の主な特徴は以下のとおりである。

(1) 裸眼視力1.0未満の者

平成23年度の「裸眼視力1.0未満の者」の割合は、小学校25.8%、中学校48.8%となっている。(表10 p24)

「裸眼視力1.0未満の者」の割合を前年度と比べると、小学校では「1.0未満0.7以上」で、中学校では「1.0未満0.7以上」及び「0.7未満0.3以上」で、前年度を下回っている。

(表10 p26)

「裸眼視力1.0未満の者」の割合を全国平均値と比べると、中学校の「0.3未満」を除いて、全国平均値を下回っている。(表11 p24)

(2) むし歯(う歯)

平成23年度の「むし歯」の者の割合(処置完了者を含む。以下同じ。)は、幼稚園51.6%、小学校68.6%、中学校61.0%、高等学校61.4%となっており、年齢別では、5歳が51.6%と最も低く、8歳が73.2%と最も高くなっている。

また、処置完了者の割合は、11歳以降、未処置歯のある者の割合を上回っている。(図10)

「むし歯」の者の割合を前年度と比べると、6歳、10歳及び11歳を除き、その他の年齢では、前年度を下回っている。(図11)

「むし歯」の者の割合を全国平均値と比べると、すべての年齢において、全国平均値を上回っている。(図12)

図10 むし歯(う歯)の者の割合

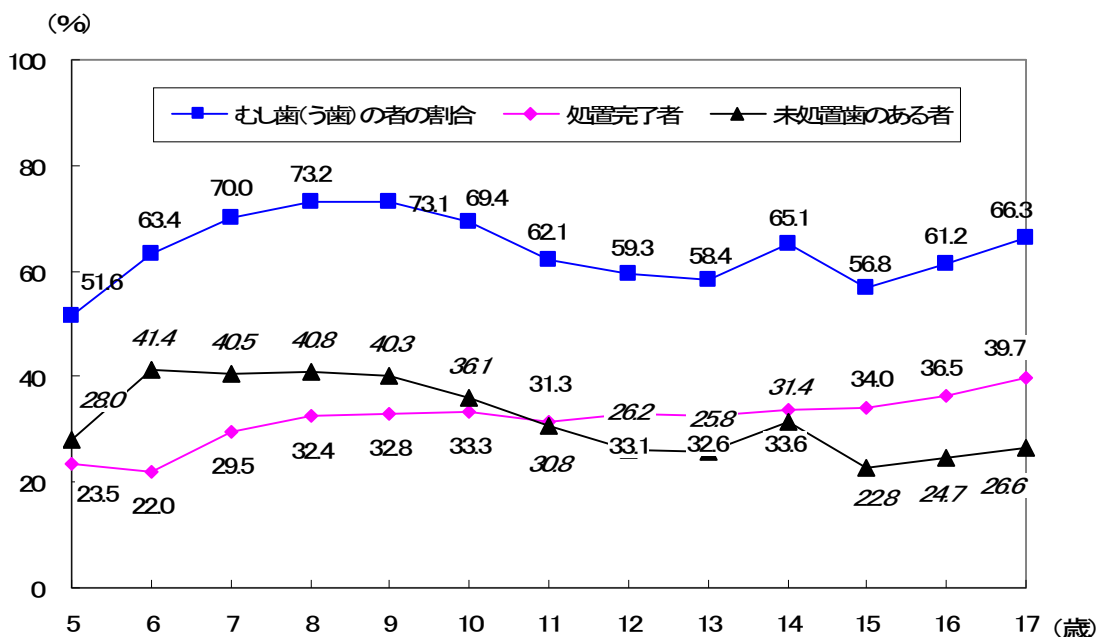


図11 むし歯(う歯)の者の割合の前年度との比較

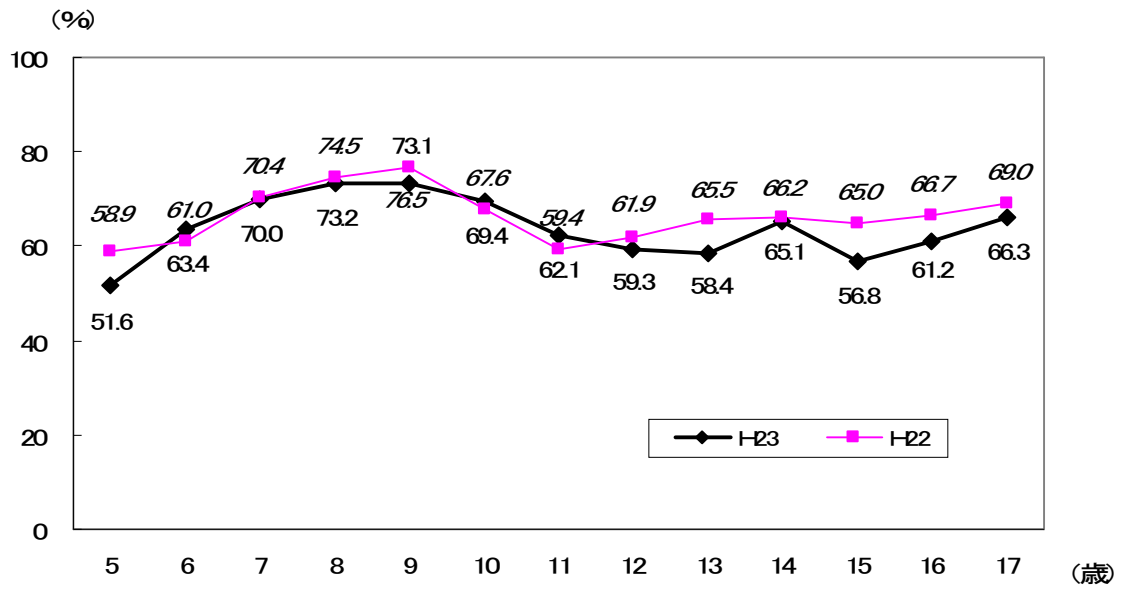
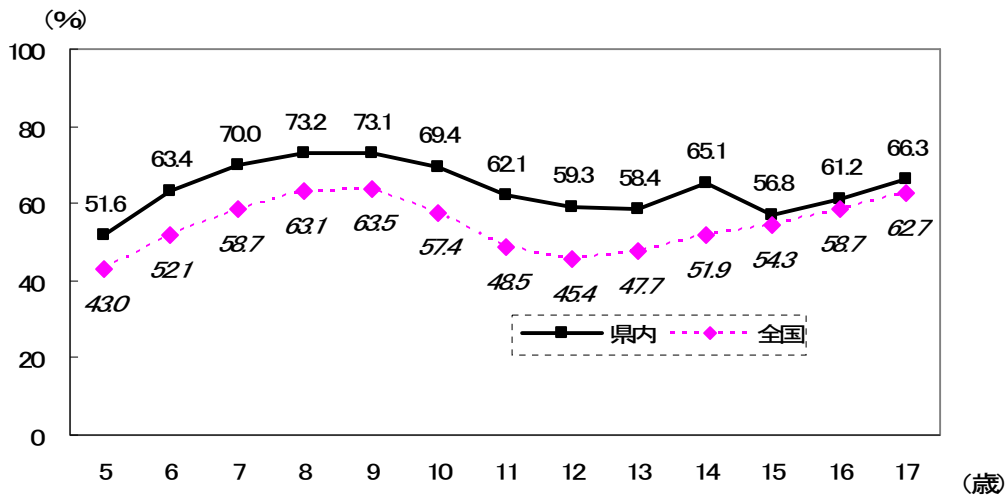


図12 むし歯(う歯)の者の割合の全国平均値との比較



(3) ぜん息

平成23年度の「ぜん息」の者の割合は、幼稚園 2.3%、小学校 2.4%、中学校 2.5%、高等学校 0.9%となっており、年齢別では、12歳が3.0%と最も高くなっている。

「ぜん息」の者の割合を全国平均値と比べると、すべての年齢において、全国平均値を下回っている。

図13 ぜん息の者の全国平均値との比較

